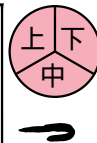
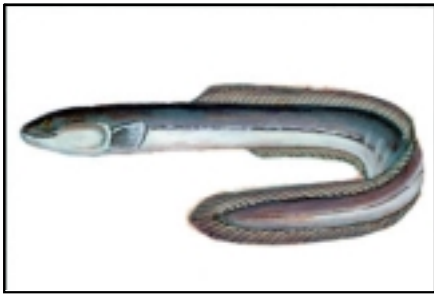
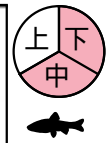


種名 ウナギ



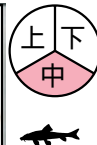
関川の上流から河口、湖や水田の用水路にまですんでいます。夜行性です。海で産卵・ふ化し、川を上りながら成長します。夜行性のために、普段あまり目にしませんが、関川の全地域にすんでいます。上流の野尻湖でも見つかりました。蒲焼きが有名です。日本海側の川に見られるものは、中国大陸の川で育ったウナギが、海へ出て産卵・ふ化したものだと考えられます。

種名 タモロコ (セグロ、ジンケン)



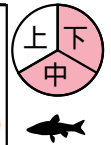
関川の中流から下流、池沼、農業用水路にすんでいます。流れのゆるやかな、水草の生えている場所に好んですみます。体は細く、横に黒っぽい線があります。関川の中流から下流にみられ、保倉川や矢代川にもすんでいます。数は、少なくありません。唐揚げや天ぷらで食べることがあります。

種名 カマツカ (スナホリ)



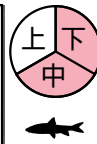
関川の中流で、川の底が砂地のところにすんでいます。体は細長く、黒いまだら模様があります。下向きの口で、藻類や水生昆虫を、砂といっしょに吸い込んで食べます。驚くと、砂の中にもぐります。関川の中流から下流で見られますが、海水の混じる河口のあたりには、見られません。保倉川や矢代川にもすんでいます。数も多く、砂地のところを探せば見つけることができます。

種名 モツゴ (クチボソ、セグロ)



関川の中流から下流や、池にすんでいます。流れのゆるやかな、泥が多いところを好んですみます。体は細く小さく、下あごがつきでています。やや黄色で、口元から尾の付け根にかけて、黒い線があります。関川の中流から下流の池に、すんでいます。保倉川にもすんでいます。数は多くありません。食べることは、あまりありません。

種名 ニゴイ (マジカ、ニゴ、ミゴ)



関川の中流から下流に、すんでいます。海水の混じる河口のあたりにも見られます。カマツカに似ていますが、まだら模様は無く、カマツカよりも大きくなります。関川の中流から河口まで広く見られ、保倉川にもすんでいます。なかでも、河口や下流では、大きなものが見られます。小骨がたくさんありますが、刺し身や唐揚げにして食べられます。

種名 ドジョウ (ムギナ)



水田や湿ったところ、流れの細いところで、たくさん見られます。河川域でも、流れがゆるやかで底が泥のところ、たくさんいます。体は細長くぬるぬるしており、口のまわりに5対のひげがあります。関川では、おもに中流にすんでいます。上流の野尻湖でも見られました。農業の使用で、一時、数が少なくなりましたが、また増えているようです。おいしい魚で、柳川やみそ汁にして食べられます。